

2026年2月27日 全7頁

Indicators Update

2026年1月鉱工業生産

普通乗用車などの大幅増産により自動車工業が生産全体を押し上げ

経済調査部 エコノミスト ビリング 安奈
エコノミスト 中村 華奈子

[要約]

- 2026年1月の生産指数は前月比+2.2%と3カ月ぶりに上昇した。内訳を見ると、自動車工業やプラスチック製品工業などの増産が押し上げ要因となった。経済産業省は基調判断を「一進一退」に据え置いた。
- 先行きの生産指数は緩やかながらも上昇するとみている。旺盛なAI・データセンター需要を背景とした半導体関連品目の増産は押し上げ要因となる。一方、日中関係の悪化は国内生産を押し下げるリスク要因だ。また、米国の高関税政策が日本経済にもたらす悪影響にも警戒が必要だ。
- 2026年3月9日に公表予定の1月分の景気動向指数は、先行CIが前月差+2.9ptの113.9、一致CIが同+3.3ptの117.6と予想する。この予測値に基づくと、1月の基調判断は機械的に「下げ止まり」に据え置かれる。

図表1：鉱工業指数の概況（季節調整済み前月比、%）

	2025年							2026年		
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
鉱工業生産	+2.1	▲1.2	▲1.5	+2.6	+1.5	▲2.7	▲0.1	+2.2		
コンセンサス								+6.1		
DIR予想								+5.5		
生産予測調査									▲0.5	▲2.6
補正值(最頻値)									▲1.9	
出荷	▲0.8	▲2.1	+0.2	+1.1	+1.7	▲1.7	▲1.6	+3.2		
在庫	▲0.3	+0.9	▲1.0	+0.8	+0.4	▲3.0	+0.9	+0.1		
在庫率	+0.9	+0.1	+2.3	▲2.3	▲2.3	+0.2	+1.6	▲4.6		

(注) コンセンサスはBloomberg。

(出所) Bloomberg、経済産業省統計より大和総研作成

【生産】自動車工業を中心に幅広い業種が増産となり、3カ月ぶりに上昇

2026年1月の生産指数は前月比+2.2%と3カ月ぶりに上昇した。内訳を見ると、自動車工業やプラスチック製品工業などの増産が押し上げ要因となった。経済産業省は基調判断を「一進一退」に据え置いた。

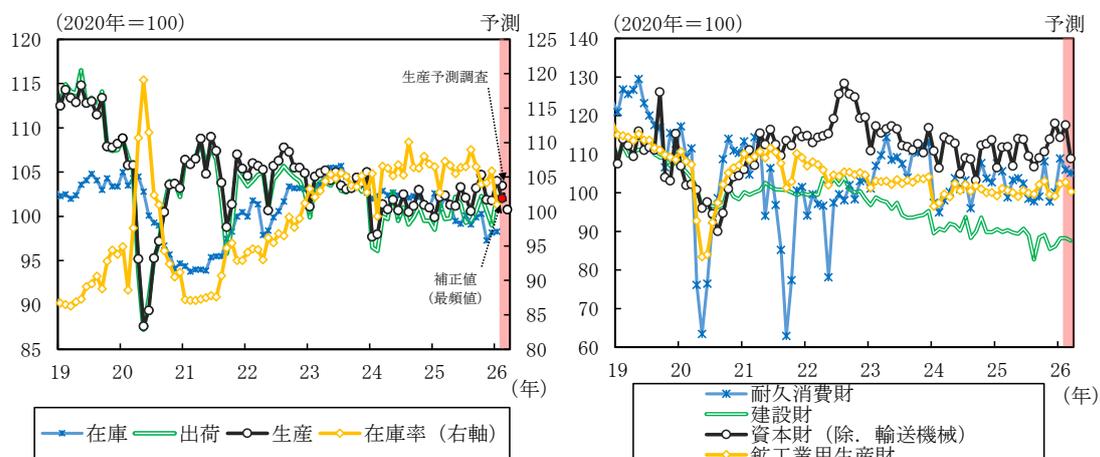
生産指数を業種別に見ると、15業種中13業種が前月から上昇した。自動車工業（前月比+9.1%）は2カ月連続で上昇した。内訳を見ると、普通乗用車（同+22.9%）などが大幅増産となった。また、プラスチック製品工業（同+8.1%）や化学工業（除. 無機・有機化学工業・医薬品）（同+7.4%）なども上昇した。内訳を見ると、プラスチック製品工業ではプラスチック製機械器具部品（同+7.5%）など、化学工業（除. 無機・有機化学工業・医薬品）では頭髪用化粧品（同+27.3%）などが増産となった。他方、生産用機械工業（同▲2.0%）とパルプ・紙・紙加工品工業（同▲0.1%）の2業種は前月から低下した。各業種の内訳を見ると、生産用機械工業では半導体製造装置（同▲12.7%）やフラットパネル・ディスプレイ製造装置（同▲54.4%）などが、パルプ・紙・紙加工品工業では印刷用紙（塗工）（同▲11.2%）が減産となった。

財別に見ると、生産財（前月比+3.4%）、非耐久消費財（同+4.5%）、耐久消費財（同+8.8%）、建設財（同+2.4%）が上昇した。他方で、資本財（除. 輸送機械）（同▲3.1%）は低下した。

【出荷・在庫】出荷指数は自動車工業などを中心に3カ月ぶりに上昇

2026年1月の出荷指数は前月比+3.2%と3カ月ぶりに上昇した。業種別では、自動車工業（同+8.8%）や電気・情報通信機械工業（同+6.6%）など15業種中13業種が上昇した。財別に見ると、生産財、耐久消費財、非耐久消費財、建設財、資本財（除. 輸送機械）のいずれも上昇した。在庫指数は同+0.1%、在庫率指数は同▲4.6%だった。

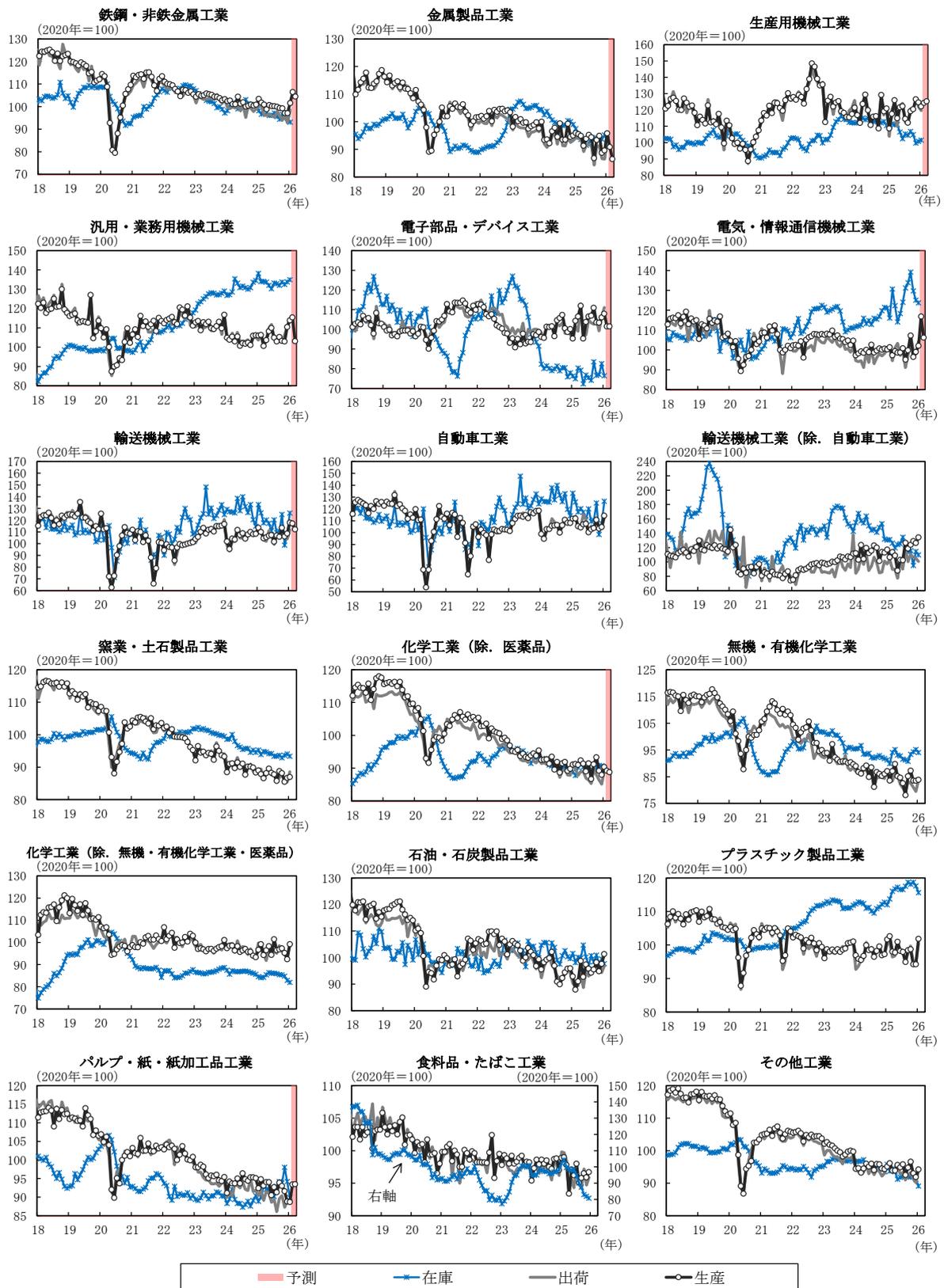
図表 2：鉱工業の生産・出荷・在庫（左）と財別の生産（右）



（注）生産指数の予測値（赤色）は、製造工業生産予測指数の補正值。その他シャドー部分の値は、製造工業生産予測調査による。

（出所）経済産業省統計より大和総研作成

図表 3 : 業種別 生産・出荷・在庫の推移



(注1) 生産指数の予測値は、製造工業生産予測調査。化学工業（除. 医薬品）の予測数値は、化学工業全体の予測数値を使用。

(注2) 食料品・たばこ工業は速報では公表されないため直近値は前月の確報値。

【先行き】生産指数は緩やかながらも上昇する見込み

先行きの生産指数は緩やかながらも上昇する見込みだ。半導体関連品目の増産が押し上げ要因となるだろう。2025年12月の世界半導体販売額（3カ月平均）は前年比+37.1%と6カ月連続で増加率が拡大し、販売先別ではアジア太平洋（Asia Pacific）や米州（Americas）における販売額が増加した¹。また、日本半導体製造装置協会によれば、2026年1月の半導体製造装置販売高（3カ月平均）は同+2.6%と2カ月ぶりに増加した²。旺盛なAI・データセンター需要を背景に、引き続き半導体関連品目の増産が期待される。

他方、日中関係悪化が長期化するリスクは懸念材料だ。中国政府は2026年1月にデュアルユース（民間と軍事の両分野で利用可能）品目の対日輸出規制の強化を発表した。さらに、同年2月にはデュアルユース品目の対日輸出禁止を発表し、日本の20企業・団体が輸出禁止リストに加えられた。生産活動に不可欠な素材であるレアアースは禁輸対象に含まれる可能性が高い³。デュアルユース品目の輸出禁止とは別に、日本の20企業・団体が輸出規制の監視リストに加えられ、デュアルユース品目の輸出審査が厳しくなる⁴。仮に、中国からのレアアース供給の途絶が長期化すれば、国内生産が下押しされるリスクとなる⁵。

なお、トランプ政権の高関税政策（トランプ関税）については、2026年2月20日に米連邦最高裁判所がIEEPA（国際緊急経済権限法）に基づく関税を違法と判決し、これまで課されてきた相互関税などは無効となった。その代替措置として、トランプ政権は別の法律に基づく新関税の導入を発表した。不確実性が高まったトランプ関税が日本経済にもたらす悪影響にも引き続き警戒が必要だ。

製造工業生産予測調査を見ると、2026年2月の生産指数は前月比▲0.5%と見込まれている。業種別では11業種中5業種が低下する見通しだ。電子部品・デバイス工業（同▲6.0%）や金属製品工業（同▲5.2%）、化学工業（同▲1.3%）などの低下が見込まれている。ただし、生産指数全体の計画のバイアスを補正した試算値（最頻値）⁶では、2月は同▲1.9%と見込まれており、実際の生産指数が予測値よりも下振れする可能性には注意を払う必要がある。

2026年3月の生産指数は前月比▲2.6%と減産が見込まれている。業種別では11業種中7業種が低下する見通しだ。電気・情報通信機械工業（同▲9.1%）や汎用・業務用機械工業（同▲10.7%）、輸送機械工業（同▲4.2%）などの減産が見込まれている。

¹ World Semiconductor Trade Statistics “[Historical Billings Report](#)”

² 日本半導体製造装置協会「[2026年1月度販売高（SEAJ速報値）日本製半導体製造装置（3ヶ月平均）](#)」（2026年2月25日）

³ 詳細は、「[中国の輸出規制、日本の成長戦略・科技計画に影響 交渉カード乏しく](#)」（日本経済新聞 電子版、2026年2月24日）

⁴ 詳細は、「[中国、軍民両用品の対日輸出禁止 三菱造船など日本の20社・団体対象](#)」（日本経済新聞 電子版、2026年2月24日）

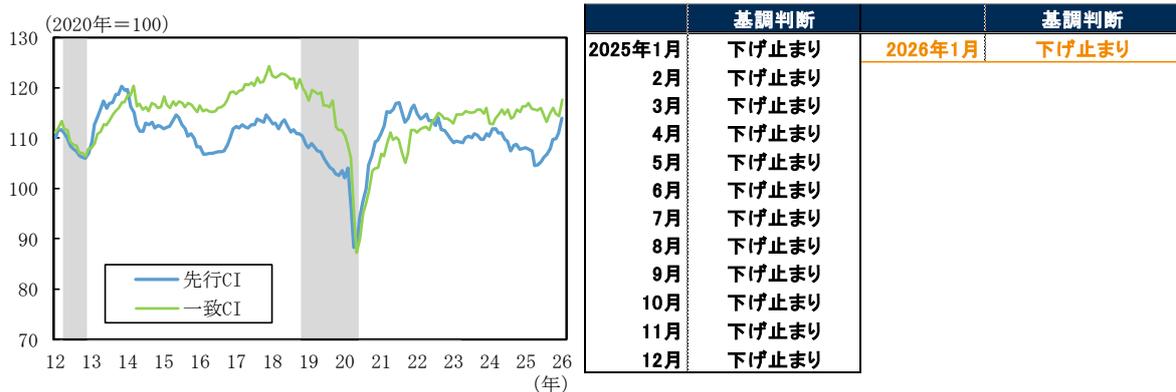
⁵ 詳細は、秋元虹輝「[中国によるレアアース・レアメタルの輸出規制は日本の実質GDPを1.3～3.2%下押し](#)」（大和総研レポート、2025年12月5日）を参照。

⁶ 生産計画は生産実績よりも上振れした値となることが多いため、生産指数全体の計画のバイアスを補正した試算値（最頻値）が公表されている。

【26年1月景気動向指数】先行CI、一致CIともに上昇を見込む

鉱工業指数の結果を受けて、2026年3月9日に公表予定の2026年1月分の景気動向指数は、先行CIが前月差+2.9ptの113.9、一致CIが同+3.3ptの117.6と予想する（**図表4**）。先行CIでは構成指標のうち、鉱工業用生産財在庫率指数（逆サイクル）や日経商品指数（42種総合）などが前月から改善した。一致CIでは構成指標のうち、鉱工業用生産財出荷指数や耐久消費財出荷指数などが改善した。この予測値に基づくと、26年1月の基調判断は機械的に「下げ止まり」に据え置かれる。

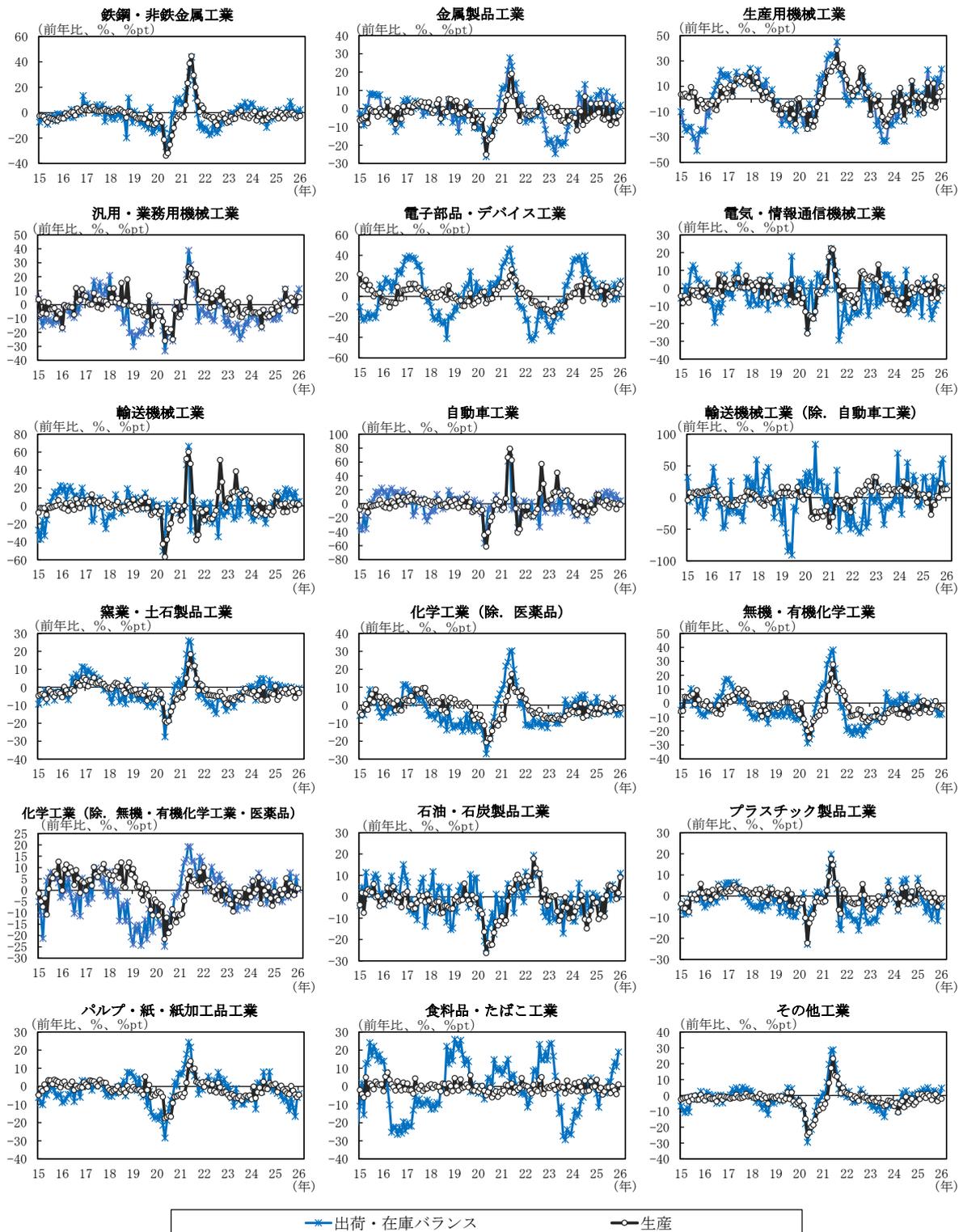
図表4：景気動向指数（先行CI、一致CI）と基調判断の推移



（注）左図の直近は大和総研による予測値。シャドーは景気後退期。2026年1月の基調判断は大和総研予想。

（出所）内閣府統計より大和総研作成

業種別 出荷・在庫バランスと生産



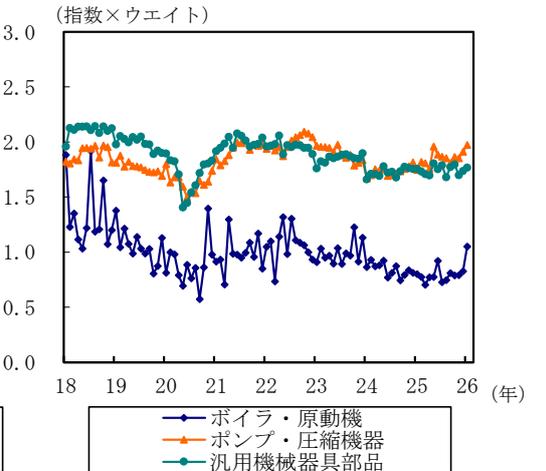
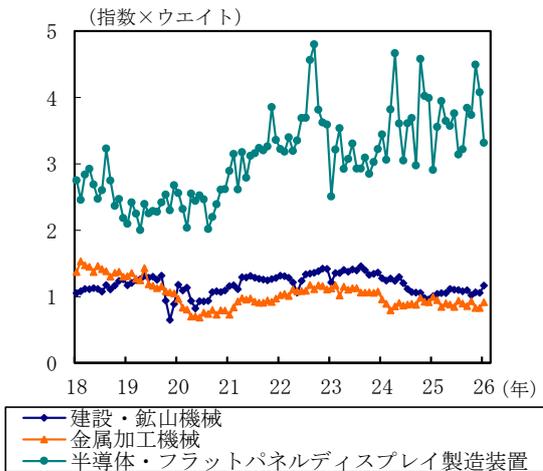
(注1) 出荷・在庫バランス＝出荷前年比－在庫前年比。

(注2) 食料品・たばこ工業は速報では公表されないため直近値は前月の確報値。

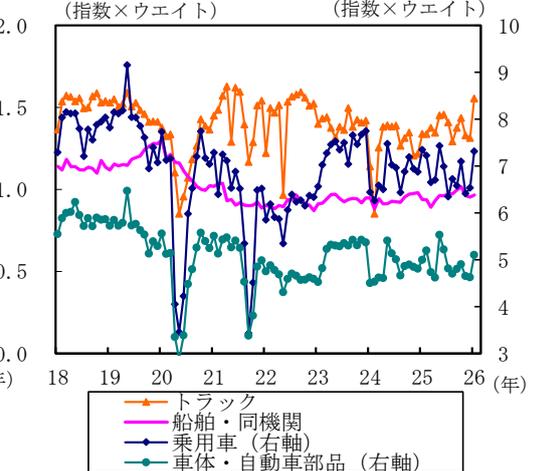
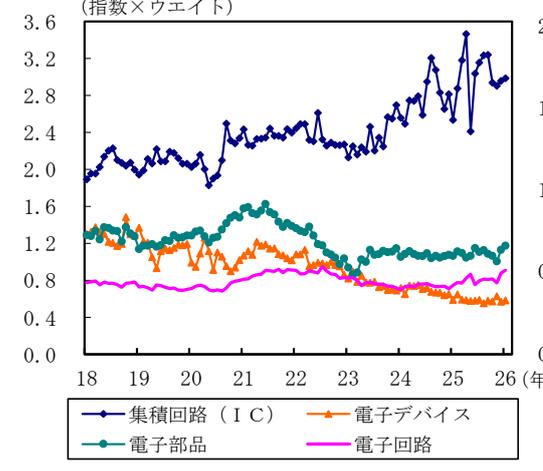
(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

主要産業の生産動向(季節調整値)

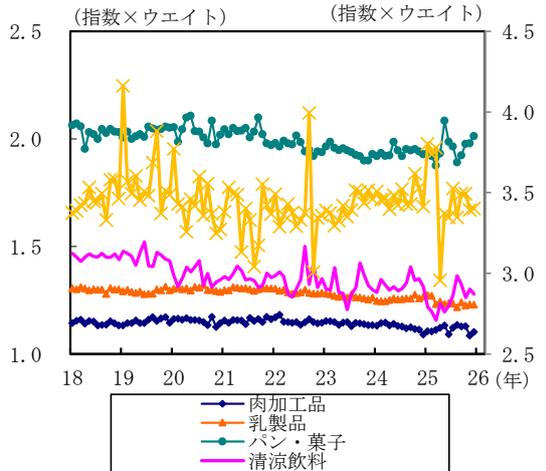
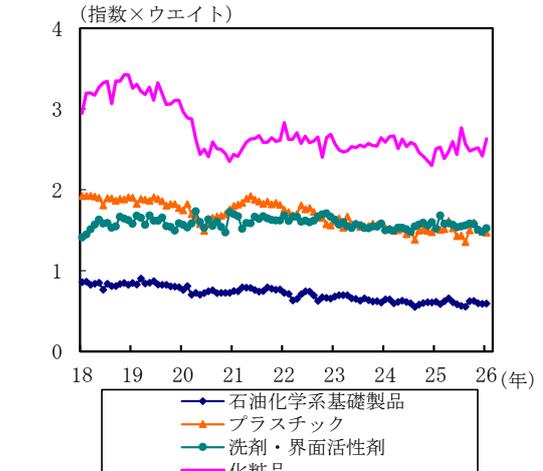
生産用機械 汎用・業務用機械



電子部品・デバイス 輸送機械



化学 食料品・たばこ工業



(注) 食料品・たばこ工業は速報では公表されないため、直近値は前月の確報値。
 (出所) 経済産業省統計より大和総研作成